

2011 年 JACM 総会報告

吉村 忍 JACM 副会長・事務局長 (東京大学), 萩原世也 JACM 事務局長補佐 (佐賀大学),
岡田 裕 JACM 企画委員 (東京理科大学)

第 11 回米国計算力学会議 (USNCCM 11) の 3 日目, 2011 年 7 月 27 日 (水) の昼休みの時間帯に, 2011 年 JACM 総会が開催されました. JACM 総会は, 毎年, IACM 傘下の計算力学国際会議である WCCM や APCOM, ECCOMAS, USNCCM に合わせて開催されています. 「総会」というと何やら堅苦しい会議をイメージしますが, 実際には, 国際会議に参加する JACM メンバーやその研究室の学生たち, 家族などが昼食時に集まり, その場所ならではの食事をしながら, 会議の様子や最新研究動向に関する情報交換の他, 現地の文化・レストラン・エンターテイメント情報などについて会話をしながら楽しいひと時を過ごします.

今回は, 講演会場となった Hilton Minneapolis Hotel から 1 ブロックほど離れたレストラン街にある The News Room というアメリカン・レストランで開催されました. 昨年の総会では料理が出てくるまでにかなり時間がかかったことから, 今回はまず何よりも先に料理を注文することからスタートしました. ちなみに, メニューは典型的なアメリカ料理です.

今年の総会には, 宮崎則幸会長・京大, 吉村忍副会長・東大, 萩原世也事務局長補佐・佐賀大, 岡田裕企画委員・東京理科大, 西脇眞二企画委員・京大, 金山寛・九大, 河合浩志・東大, 小谷高代・京大, 塩谷隆二・東洋大, 須賀一博・東京理科大, 杉本振一郎・東大, 高橋昭如・東京理科大, 田中智行・広島大, 中林靖・東洋大, 橋本学・東大, 姫野龍太郎・理研, 山田知典・日本原子力研究開発機構, 宮村倫司・日大, 遊佐泰紀・東大, 和田義孝・諏訪東京理科大の方々 20 名が参加しました.

しばし食事と談笑の後に, 吉村の司会のもと JACM 総会の公式行事がスタートしました. はじめに, 宮崎会長から挨拶があり, 総会参加へのお礼と JACM の近況報告が述べられました. 続いて総会のメインイベントである 2011 年度 JACM Award の授賞式がありました. 今回の受賞者は, JACM Computational Mechanics Award (JACM Award for Computational Mechanics) が, 青木尊之・東工大教授 (総会欠席), 姫野龍太郎・理研グループディレクター, 吉村忍・東大教授の 3 名, JACM Fellows Award が, 渋谷陽二・大阪大教授 (総会欠席), 西脇眞二・京大教授の 2 名, JACM Young Investigators Award (JACM Award for Young Investigators in Computational Mechanics) が, 屋代如月・神戸大准教授 (総会欠席), 山田知典・日本原子力研究開発機構研究副主幹の 3 名であり, 出席された方々それぞれに宮崎会長より賞状が授与されました. 受賞者を代表し, 姫野氏, 山田氏よりそれぞれに喜びのご挨拶をいただきました.

引き続き, 吉村より, JACM の過去 1 年間の活動概要と今後の活動計画について報告がありました.

まず, JACM の会員数が 270 名 (2011 年 7 月 27 日現在) であること, メールマガジンが No.1~12 まで発行済みであり, 今後も 2 月に 1 号のペースで発行する旨報告されました.

次に, JACM 規約にあるように, 現運営委員と役員の任期は 2012 年 3 月 31 日までなので, 本年度後半に運営委員改選が行われ, 新運営委員のもとで今年度中に会長選挙を行い, 次期の新会長及び役員を決定するという予定であることが報告されました.

また, IACM からの要請に応じて, JACM として, WCCM2012 の Plenary 及び Semi-plenary 講演者候補者の推薦を行ったことも報告されました. WCCM2012 の Semi-plenary 講演者に JACM 会員で 2007 年 JACM Fellows Award 受賞者である越塚誠一・東大教授, 大島まり・東大教授が選ばれています.

USNCCM-11 では, JACM 会員によるミニシンポジウムが 2 件企画されていることが紹介されました.

(1) Large Scale Coupled Problems and Related Topics (H. Kanayama, R. Shioya, S. Yoshimura)

(2) Recent Advances in Computational Fracture Mechanics (H. Okada et al.)

次に, 2012 年に開催される WCCM2012, Sao Paulo, 8-13 July, 2012 と, ECCOMAS 2012, Vienna, Austria, 10-14 Sep. 2012 の 2 つの会議で MS (Mini Symposium) 企画募集中であることが紹介され, 奮って提案していただきたいとの要請がなされました. 2011 年 8 月 26 日時点での JACM 会員による WCCM2012 の MS 企画は次の通りです.

(1) Large Scale Coupled Problems and Related Topics (H. Kanayama, R. Shioya, S. Yoshimura)

(2) Computational Mechanics for Microsystems, Devices, Packaging and Related Materials (N. Miyazaki et al.)

(3) Recent Advances in Computational Fracture Mechanics (H. Okada, T. Nagashima et al.)

(4) New Trends in Topology Optimization (S. Nishiwaki, K. Izui et al.)

(5) Frontier in Multi-physics CFD (N. Oshima, M. Yamamoto)

(6) HPC Powered Multi-scale Material Simulation (N. Nakajima, H. Okuda)

(7) Multiscale Materials Science and Modeling (K. Saitoh, R. Matsumoto, S. Ogata)

(8) Inverse Problems, Design and Optimization (S. Kubo, T. Matsumoto et al.)

(9) Recent Advances in Meshfree and Particle Methods (S. Hagihara, S. Koshizuka, Y. Sakai)

(10) Mechanics of Heterogeneous Structures (T. Ikeda, H. Koguchi)

(11) Computational Technologies for Biomaterial and Functional Material (E. Nakamachi, H. Sakamoto, Y. Uetsuji, H. Kuramae)

続いて、JACMに参加している日本機械学会計算力学部門が部門設立 25 周年記念行事として計画している国際シンポジウム International Computational Mechanics Symposium 2012 (ICMS2012), Kobe, 9-10 Oct., 2012) の紹介があり、JACM が全面的に支援していくことが述べられました。JACM からはすでに Plenary Lectures として J.S. Chen・UCLA 教授 (IACM 理事, USACM 会長), R. Ohayon・CNAM 教授 (IACM 理事) 招聘に協力するとともに、国際広報等も積極的に行っていく予定です。

また、少し先ですが、T.J.R. Hughes・テキサス大オースチン校教授の 70 才をお祝いする記念講演会 A Conference Celebrating the 70th Birthday of Thomas J. R. Hughes with A Special Truck 17th International Conference on Finite Elements in Flow Problems (24-28 Feb., 2013, San Diego, USA) についても JACM が協力していくことが紹介され、積極的な参加が呼びかけられました。

次に、JACM 共催イベントとして、日本学術会議「第 2 回計算科学シミュレーションシンポジウム」(2011 年 4 月 20 日, 乃木坂), 日本学術会議シンポジウム「シミュレーション・予測と情報公開に求められること」(2011 年 7 月 14 日, 乃木坂), JST 主催「大規模計算科学国際シンポジウム」(2011 年 10 月 17 日, 乃木坂), 日本学術会議「第 1 回計算力学シンポジウム」(2011 年 11 月 11 日, 乃木坂), の開催, あるいは開催予定であることが紹介されました。

JACM 協賛イベントとして、本年 2 月 4 日に東京で開催された第 22 回日本原子力機構 CCSE ワークショップ「原子力耐震計算科学の現状と将来」の報告がなされました。ま

た、恒例行事となっていますが、日本機械学会・計算力学技術者認定事業は本年度、上級アナリスト試験が 9 月 18, 19 日に東京で開催され、1, 2 級試験が、12 月 10 日に東京、名古屋、大阪、金沢、福岡にて開催されることが報告され、協力の呼びかけがなされました。

また、2011 年 10 月 8 日 (土) 午後、岡山大学で開催される日本機械学会第 24 回計算力学部門講演会において、APACM 事務局長の G.R. Liu・シンシナチ大教授の特別講演 "Computational Methods for Certified Solutions, Adaptive Analysis, Real-time Computation, and Inverse Analysis of Mechanics Problems" が行われることがアナウンスされた。

この他、検討課題として、アジア地区での IACM Thematic Conference 開催の要請がきており、よいテーマがあれば積極的にご提案いただきたい旨要請された。

最後に、次回の JACM 総会は、2012 年 7 月 8-13 日にブラジル・サンパウロで開催される第 10 回 WCCM に合わせて開催されることがアナウンスされた。

今年は、3 月に東日本大震災の発生があり、被災された大学・研究機関・企業も多く、春の時点ではどうなることかと心配されたが、何とか例年通り開催することができました。ご参加いただいた皆様には改めてお礼を述べさせていただきます。また、計算力学関係者は防災・減災・復興等の観点から役立つ研究を進めている方も多く、コミュニティー丸となって、日本の復興、さらにはその経験の世界への展開に貢献していきたく思います。

来年ブラジルで再会できることを心待ちにしています。



写真1 The News Room 入口の像



写真2 宮崎会長から JACM Computational Mechanics Award を受けた姫野龍太郎・理研グループディレクター



写真3 宮崎会長から JACM Computational Mechanics Award を受けた吉村忍・東大教授



写真4 宮崎会長から JACM Fellows Award を受けた西脇眞二・京大教授



写真5 宮崎会長から JACM Young Investigators Award を受けた山田知典・JAEA 研究副主幹



写真6 食事をしながら談笑する参加者たち

2011 年 JACM Awards 贈賞報告

宮崎則幸 JACM 会長（京都大学）

2011 年 7 月 27 日に米国・ミネアポリス市で開催された JACM 総会において、2011 年 JACM Award 各賞の発表された。

The JACM Award for Computational Mechanics

青木尊之・東京工業大学教授

（受賞理由：数値流体力学における新しい高精度計算手法の開発、及び GPU の計算力学に適用に関する研究における先駆的で顕著な業績に対して）

姫野龍太郎・理研グループディレクター

（受賞理由：数値流体力学におけるスーパーコンピュータの利用、及び生体への計算力学の適用における先駆的で顕著な業績に対して）

吉村忍・東京大学教授

（受賞理由：ADVENTURE システムの開発において認められるような大規模・ハイパフォーマンス・インテリジェント計算力学における先駆的で顕著な業績に対して）

The JACM Fellows Award

渋谷陽二・大阪大学教授

（受賞理由：原子レベルのシミュレーション手法、マルチスケールシミュレーション手法を用いた塑性物理学分野

での顕著な業績に対して）

西脇眞二・京都大学教授

（受賞理由：トポロジー最適化の基礎論とその各種物理問題への適用における顕著な業績、及び JACM へのサポートおよび国際的学会活動への貢献に対して）

The JACM Award for Young Investigators in Computational Mechanics

屋代如月・神戸大学准教授

（受賞理由：分子動力学法を中心としたナノ・メゾレベルの計算力学手法による材料強度研究に関する優れた業績に対して）

山田知典・日本原子力研究開発機構研究副主幹

（受賞理由：計算固体力学分野における大規模構造の解析アルゴリズムに関する優れた業績に対して）

なお、各賞の表彰規定は次の通りです。

The JACM Award for Computational Mechanics

日本計算力学賞（年に 1 回程度表彰、3 名以内）

計算力学の広い分野での顕著な研究業績、ソフトウェア開発、計算技術開発に対して与えられる。